

第6回 象牙取引規制に関する有識者会議 事務局資料

「第5回象牙取引規制に関する有識者会議」 における委員からの主な意見

「第5回象牙取引規制に関する有識者会議」における委員からの主な意見

項目	主な意見
取引の是非	<ul style="list-style-type: none"> ◆合法的な市場でも需要や供給の誘発効果があり、今後縮小すべき。市場を継続する場合、「合法的な象牙以外は取引できず、違法象牙とは全く違う市場である」ことを世界に周知することが重要。 ◆ まず、象牙取引の原則禁止を目指す都独自の宣言を行うべき。その上で、厳格な管理の下取引可能な例外を定め、それ以外の取引を禁止する等の条例・要綱を制定すべき。 ◆現状では大きな問題は生じておらず、むしろ象牙市場を維持すべき。密猟・密輸を制御し、それによりゾウを守りアフリカ現地で人との共存につながるかが最大の論点。
違法な輸出入への対策	<ul style="list-style-type: none"> ◆違法な象牙輸出の入手元が都内であることが強く疑われ、都として独自の対応を条例で実施する理由がある。現行法の下で違法な国外持出を防止するため、購入の届出義務を課す等の手続きを規制する条例を制定し、インバウンド復活前に先手を打つべき。 ◆象牙の海外流出がブラックマーケットを活性化させる可能性がある、水際対策だけでは違法輸出を阻止できないので、市場の体制や規制を見直すべき。都が自治体のできる範囲で先行した取組を行うことで、国の施策に反映させることができ、種の保存法改正を見据えたタイミングで実施することは非常に意義がある。
透明性の向上 (トレーサビリティ)	<ul style="list-style-type: none"> ◆市場閉鎖より需要削減を優先すべき。その上で、認証制度等で違法象牙を市場から排除すべき。その意味で、国の法改正は評価できるので効果を注視したい。 ◆消費者が象牙製品を合法か違法か区別できないことは制度的な欠陥。トレーサビリティを確保し適切に管理できれば良いが、それには多大なコストがかかる。世界から批判を招かないためには、トレーサビリティを確保しやすい狭い例外を除いた取引禁止が当然の帰結。 ◆現状維持は、少なくとも南部アフリカの持続的利用プログラムの支援にはならない。更なるワンオフセールの実現を目指すのであれば、違法な象牙を確実に排除できるトレーサビリティのシステムの導入が必要。